



学校通信

平成31・令和元年度 第7号

令和 元年11月 1日

練馬区立開進第三小学校

校長 岡部 良美

『大切にしたい 親子の共通話題』

校長 岡部 良美

「先生、おはようございます。」 毎朝、笑顔で登校する子供たち。今日はどんな勉強ができるのかな。今日はどんな友達と、どんなことができるのかな。そんな期待感をもって子供たちは学校へ登校してきます。

「先生、さようなら。」 笑顔で下校する子供たち。学校生活の中では、様々な期待感が達成され、一つ一つ学んで、家庭へ帰って行くのです。下校時の笑顔は、楽しかった今日の学校生活の自己評価の表れと言っても過言ではないでしょう。

家庭に帰ると、「今日はあんなことがあったよ。」「こんなことがあったよ。」と、お家の人に話したいことが山ほどあるものです。小学校時代はそういう毎日の連続です。しかし、年齢とともに、次第に口数が少なくなっていく傾向があります。話しても聞いてもらえないということもあるでしょう。また、すべて逐一報告をするかのように話していた事柄も、次第に操作するようになり、話しても解決や前進につながらないと思われることは話さないようになってきます。親としてさびしさを感じる時ですが、子供は成長しているのです。特に、中学校に入ると多感な時期を迎え、話すことが極端に少なくなると言われます。

ところが、中学校2年生のある時期から、親に話しかけることが多くなったとの報告がなされています。その時期とは、「職場体験」期です。中学校により期間は若干異なりますが、一週間つまり5日間の職場体験によって、世の中の厳しさを目の当たりにするからです。その体験によって、社会の営み、働くことの尊さ、就労の大変さ等を実感するのです。それまでの世界観と違う世界観を体験するのです。

「年齢が進むとともに、話さなくなる。」そういう声をよく耳にするものですが、話さないのではなく、「共通の話題」が少なくなっているからなのです。親子の間に、共通の話題があれば、自分の心の中から自分の言葉が湧き出してくるものです。

共通の話題とは、世の中、社会、世間という土俵の中にあることを心得ておきたいと思えます。

10月は運動会での子供たちの躍動、ラグビーワールドカップ日本のワン・チームの活躍、多くの被害をもたらした台風など共通の話題となりうるものがたくさんありました。ラグビーワールドカップを例にとると、「正義、勇気、仁義、礼儀、誠実、名誉、忠実」について、対戦する両チームの選手や応援する観衆、被災地に出向き復興に向けて後片付けを手伝う外国の選手の姿から、共通の話題にすることも多かったのではないのでしょうか。

11月22日・23日の学芸会に向けて、学年の子供たちがワン・チームになり劇を創っていきます。お子さんとの話題の一つとしていただければと思います。

